

TV で「これが本当の道草を食うです」と言って、道端の草で食べれる草を紹介していました。猫じゃらしも食べれるということは、この番組を観るまで知りませんでした。猫じゃらしはトウモロコシの先祖だそうです。火であぶると、同じように弾けてポップコーンの味がします。昔、道草を食って食べた人がいて、改良されてトウモロコシが誕生したのかもしれませんが。道草を食うことは未来を切り開く可能性に満ちた素晴らしいことのようにです。

今朝の聖書の記事もモーセが道草を食って自分は何のために活かされているのか気付かされた記録です。モーセは、羊の世話のためにホレブ山(シナイ山)に来た時に柴が燃えているのに燃え尽きないことが気になりました。モーセは道をそれて燃えている柴の方に近づいて行きました。すると神様が、「エフエー・アシェル・エフエー(私はあらしめる者だ)」「ここは聖なる場所である」と言われた。神様が声をかけようとしておられる場所が聖なる場所なのです。

エドゥアール・ベネディクトゥスという科学者は、実験室でビーカーを落として実験を途中で中断しなければなりません。その時、ガラスがバラバラに割れていなかったことに興味を持ちました。それが自動車のフロントガラスに使われているガラスの開発に繋がりました。元東芝会長の岩田和武夫という人は、部長時代に不本意な派閥抗争に巻き込まれて左遷されたそうです。その左遷先が子会社の子会社の乾電池工場であったそうです。そんなひどい仕打ちには、大体の人は辞表を出して辞めますが、岩田さんは乾電池について猛勉強をして、孫会社の業績を大幅に伸ばし、本社に専務として呼び戻されたそうです。今では乾電池はEV自動車や飛行機になくはない物として注目されています。

どんな仕事でも、どなたの人生でも、置かれた場所が不本意に思えても、そこが自分にとって聖なる場所、神様から与えられた場所、自分の人生を導く大事な場所だと考えて気持ちを込めて励むと新しい発見や気づきが与えられて、物事をあらしめる神様のご臨在を感じます。「こんなところ」と考えると気持ちも腐って、ただの荒れ野に見えてきます。ましてや年齢をとっていると人生の余生だから仕方がないと思います。しかし、神様は今でも私達の年齢に関係なく働きかけておられます。道草を食いましょう。そして、ご自分のことをエフエー・アシェル・エフエー(私はあらしめる者だ)と言われ、私たちに新しい仕事をさせようとしておられることを興味深く感じて、応えて行く者でありましょう。